

第4回那珂川町第九を歌う会 演奏会を開催

町民の融和と交流を図ろうと平成19年3月に発足した「那珂川町第九を歌う会」（古沢實会長）では12月12日、小川総合福祉センターあじさいホールで第4回演奏会を開催しました。同会約110人の老若男女のメンバーのほか、宇都宮高、宇都宮女子高の合唱部や音楽部管弦楽団、オーケストラ部の約110人の生徒、宇都宮市で活動している合唱団のメンバーらが一丸となって、ベートーヴェンの交響曲第九番などを披露しました。



今回で4回目の公演となった「第九を歌う会」。演奏会では、まず初めに特別演奏として、那珂川町小川出身の玉川克さんによるチェロの独奏があり、桑生美千佳さんのピアノ演奏とともに、「さくらさくら」や「荒城の月」などが演奏されました。

続いて宇都宮高校音楽部管弦楽団と宇都宮女子高校オーケストラ部合同による「葦笛の踊り」や「花のワルツ」などの演奏があり、引き続き、日本の歌として、「涙そうそう」や「ふるさと」などを合唱した後に、交響曲第九番合唱「より第四楽章（ベートーヴェン作曲）を歌いました。町内外から約350人の大勢の観客が訪れ、出演者には

演奏が終わる度に盛大な拍手が送られていました。また、アンコールでは、「涙そうそう」と「ふるさと」を合唱し、観客の皆さんと一緒に歌い、会場は一体感に包まれていました。



ホールに響くソリストの歌声

観客の皆さんの感想 (アンケートの結果より)

○毎年鑑賞させてもらっています。合唱団とオーケストラのハーモニーが素晴らしいですね。来年も来ます。

(町外・30代男性)

○この小さな町で素敵な一日を過ごせて楽しかったです。

ふるさと那珂川町の自慢の一つです。

(町内・40代女性)

○チェロとピアノ演奏は素晴らしいかったです。親しみのある「さくらさくら」「荒城の月」にはジーンとききました。第九は迫力満点、涙が出ました。今は町外に住んでいますが、「ふるさと」は小川です。感動的でした。

(町外・70代男性)



アンコールで一緒に歌う観客の皆さん

寄贈 ありがとうございます

- 福祉基金へ
一万六千六百七十二円
那珂川町文化協会歌謡部様
三万一千五百六十六円
(有)益子建築・(株)関東フーズ
合同ゴルフコンペ様
- 図書館へ
図書「マリア様がみてる9巻」
友田哲也様(馬頭)
- 社会福祉協議会善意銀行へ
八千円 匿名(434回)
- 社会福祉協議会振興基金へ
二万円 益子和弘様(健武)
(34回)
- 社会福祉協議会事業へ
十万円 長山宣弘様(久那瀬)
一万二千元
川崎工業(株)安全大会様
一万三千元
宇都宮ヤクルト販売(株)様
二千元
スターライト友の会様
- 社会福祉協議会へ
福祉機器(シルバーカー他)
馬頭・小川ロータリー
クラブ様
福祉機器(シャワーチェア)
(株)田島工業様

地域資源活用による 町おこし講演会

12月2日、山村開発センターで地域資源活用による町おこし講演会が開催されました。

講演会では、講師に県産業技術センター理事長の黒崎日出雄氏を迎え、「地域資源を発見し、ブランド化、町づくりを活かそう」と題して講演を行いました。

黒崎さんは、「眠っている地域資源を掘り起こしてブランド化し、その資源を第1次産業・第2次産業・第3次産業すべてに利用していくことが大切です」と話していました。

町内の商店や温泉旅館、農業関係などから集まった52名の参加者は、黒崎さんの話に熱心に耳を傾けていました。



商工祭



小川暮れ市

商工祭・小川暮れ市

12月5日、役場周辺の特設会場にて、商工祭が開催され、福引きや模擬店、よさこいや猿回しのアトラクションに家族連れを中心に大勢の町民が集まりました。

また、小川総合福祉センター南側の特設会場でも、小川暮れ市が開催され、ダルマ市やミニ上棟式、フリーマーケットなどで大いに賑わいました。

ひばり幼稚園で発表会

12月7日、ひばり幼稚園では発表会を開催。高橋道男園長から「今日の発表会に向けて、園児たちは、一生懸命に練習してきました。日々、確実に成長している子ども達の姿をご覧いただき、たくさん拍手をお願いします」とのあいさつに続き、園児の皆さんは、お遊戯や歌・合奏などを次々に保護者の前で披露しました。

オペレッタ「15匹のこぶたとおおかみ」では、こぶたの数を増やして園児たち全員が出演出来るように工夫し、遊戯の「よさこいエイサー琉球王」では、そろいのハッピー姿で元気な掛け声とともに踊る園児の姿に大きな拍手がありました。

また、発表会に引き続き行われたクリスマス会では、サンタさんからプレゼントに園児の皆さんは大喜びでした。



「栃木の峠」講演会

12月19日、なす風土記の丘資料館小川館にて、「峠でたどる栃木の歴史と文化」と題した講演会が開催されました。

今回の講演は、小川ハイキング同好会が主催したもので、県内外はもとより、外国の登山歴も豊富な桑野正光教育長が、山歩きの楽しさを教えてくれた縁で、今回、講師をお願いし、開催したものであります。

講演では、戦後の大量高速輸送時代に適したトンネルが普及し、峠が廃れていく現状や「山」の「上下」と書いて「峠」と読ませる日本人が造字した国字の妙の説明があり、また、北と東西の三方が山地に囲まれた栃木には多くの峠があり、特に陸奥と都をつなぐ重要路としての栃木の道と峠の特徴などをわかりやすく解説してくれました。

最後に栃木には、他に誇れる歴史的な峠が多数あり、峠という文化遺産をとらえて地域の歴史を知り、継承することは、その世代の義務であると語ってくれました。

